



筋骨格障害

猫の変形性関節症



変形性関節症は、猫によく見られる関節疾患です。若齢猫でも発症することはありますが、高齢化するに従って変形性関節症のリスクは高まります。¹

変形性関節症の臨床症状には、跳びたがらない、跳ぶ高さが低くなる、不適切な排泄（トイレの使用や排泄時の姿勢に不快感があるため）、毛づくろいが減るために外見が乱れるなどがあります。変形性関節症の猫は活動量が減少する場合もあれば、痛みのために落ち着きをなくして活動量が増加する猫もいます。変形性関節症の犬の多くは明らかな跛行を示しますが、猫ではあまり見られません。

変形性関節症では、炎症と酸化ストレスが軟骨などの関節組織の損傷に関連している可能性があります。変形性関節症の猫において関節の健康をサポートするには、目標を定めた栄養管理を含む多面的なアプローチが有効になる可能性があります。

キーメッセージ

- 関節の健康を保つには、猫の生涯を通じて理想的な体型を維持することが重要です。高齢猫では、次のような場合に、変形性関節症のリスクが最も高くなります。
 - 7～12歳の猫（シニアライフステージの「成熟」期に該当）は、過体重または肥満になる傾向が最も高くなります。過体重または肥満の猫が変形性関節症になっている場合、減量が重要です。
 - 減量することで、過体重によって関節にかかる余分な機械的ストレスが軽減されます。
 - 肥満は慢性炎症を伴い、フリーラジカルの産生を増加させるため、関節の損傷に寄与する可能性があります。過重な体重を減らすことにより、炎症と酸化ストレスを軽減します。
 - 12歳以上の猫（「老年」の猫）は低体重になりやすく、脂肪と除脂肪体重の両方が減少することがあります。タンパク質を多く含む食餌を与えて除脂肪体重と体重を維持すると、支持筋力の維持に役立つ場合があります。

ご存じでしたか？

ある研究では、11歳以上の猫の100%¹がX線画像で変形性関節症の徴候を示していました。¹

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- 猫に関する研究は非常に限定的であるものの、主要栄養素を含む食餌が猫の関節炎に有効となる可能性があります。
 - グルコサミンとコンドロイチン硫酸は軟骨の構成要素であり、健康な関節の維持に役立ちます。
 - オメガ 3 系脂肪酸のエイコサペンタエン酸 (EPA) とドコサヘキサエン酸 (DHA) には抗炎症作用があり、軟骨の劣化や跛行を抑えることができます。
 - また、上記の栄養素と緑イ貝 (ニュージーランドに生息する貝類) のエキスを組み合わせることにより、関節炎の猫の運動能力に改善が見られました。²
- 給餌器、給水器、トイレなどの日用品は、運動能力の低い猫でも簡単に使用できる場所に設置する必要があります。変形性関節症の猫には、給餌器や給水器を床から数センチ高くすると使いやすくなる場合があります。

追加のリソース

1. Lascelles, B. D. X., Henry, J. B., Brown, J., Robertson, I., Thomson Sumrell, A., Simpson, W., Wheeler, S., Hansen, B. D., Zamprogno, H., Freire, M., & Pease, A. (2010). Cross-sectional study of the prevalence of radiographic degenerative joint disease in domesticated cats. *Veterinary Surgery*, 39(5), 535-544. doi: 10.1111/j.1532-950X.2010.00708.x
2. Lascelles, B. D. X., DePuy, V., Thomson, A., Hansen, B., Marcellin-Little, D. J., Biourge, V., & Bauer, J. E. (2010). Evaluation of a therapeutic diet for feline degenerative joint disease. *Journal of Veterinary Internal Medicine*, 24, 487-495. doi: 10.1111/j.1939-1676.2010.0495.x

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。